



愛知総合工科高校専攻科がフェイスシールド 30 個を  
工学部材料機能工学科に寄贈  
実験での学生の新型コロナ感染防止に活用

本学が指定管理法人として運営する愛知総合工科高校専攻科(名古屋市千種区)の生徒がフェイスシールドを作り、6月5日、本学工学部材料機能工学科に寄贈しました。教員と学生に実験実習授業の際に着けてもらい、新型コロナウイルス感染症防止に役立ててもらいます。

フェイスシールドは同専攻科生が、本学工学部で必要という声を受け、校内の3Dプリンターとレーザーカッターを使って製作しました。「学びを通じた社会貢献」の意味合いを込めました。

6月5日は、専攻科2年の二俣峻さん(20)と佐藤龍之介さん(19)が本学天白キャンパスにフェイスシールド30個を持参し、工学部材料機能工学科の学科長である六田英治(ろくた・えいじ)教授(53)＝表面物性材料＝に贈りました。(※3人とも6月中に年齢が変わることはありません)

六田教授はさっそく着用して装着感を確かめ、「実験の時には対話を積み重ねるので、フェイスシールドは必要です。学科の教員一同、ありがたく使わせていただきます」と、生徒2人に感謝の言葉を贈りました。

専攻科は、教員、学生の使用感をフィードバックしてもらい、改良に生かします。

二俣さんは「社会貢献という目的がはっきりしていて、実際に渡して『これは助かる』と言われ、作ってよかったと思いました」、佐藤さんは「人の役に立つものづくりの重要性をあらためて認識しました」と話しました。



**写真上:愛知総合工科高校専攻科から寄贈されたフェイスシールドの出来栄を確かめる六田教授(中央)=名古屋市天白区の名城大学天白キャンパスで**

**写真下:フェイスシールドを受け取った六田教授(中央)と、製作した二俣さん(右)と佐藤さん(左)=名古屋市天白区の名城大学天白キャンパスで**



写真は提供します。件名を「フェイスシールド」とし、下記のアドレスにメールをください。